

北海道浮魚ニュース

平成 20(2008)年度 19 号 (通巻 No.271)

2008 年 10 月 3 日

北海道立水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

道東太平洋サンマ南下期調査結果

漁獲尾数は少なかった 魚体は小型が比較的多い

北辰丸(釧路水産試験場試験調査船)で行ったサンマ南下期調査の結果をお知らせします。今回の調査は、道東太平洋海域へのサンマの南下状況を把握することを目的に実施しました。

調査期間：2008 年 9 月 22 日～10 月 1 日

調査海域と調査点(図 1)：道東太平洋(40° 30'N～42° 40'N, 143° 25'E～146° 50'E)の 15 調査点(時化のため漁獲調査は 8 点中 5 点で実施、海洋観測は 15 点中 12 点で実施した。)

調査方法：CTD による海洋観測及び 9 種類の目合(22,25,29,37,48,55,63,72,82mm)の流し網を用いた漁獲調査

1. 表面水温(図 1, 表 1)

各調査点の表面水温は 11.8～19.9 の範囲でした。沿岸域では、東側(St.1)で非常に高く、西側の十勝沖(St.13,14,15)では、親潮水(冷水)と見られるサンマの分布に好適な 15 以下の水温が広がっていました。沖合域(St.5,6,7)では 17 前後のやや高い水温でした。

2. 漁獲尾数と CPUE(図 1, 表 1, 表 2)

流し網調査の結果、サンマの総漁獲尾数は 200 尾でした。また、CPUE*(流し網 1 反あたりの漁獲尾数)は 2.9 尾でした。これを 2000 年以降の同調査結果と比較すると、漁獲尾数、CPUE ともに 2 番目に低い値でした。この要因としては、沿岸域では、現在主な漁場となっている落石沖の海域を避けたこと、また沖合域では水温が高くサンマの分布が少なかったことなどが考えられます。

3. 体長組成(図 2)

流し網で漁獲されたサンマの体長範囲は、15～34cm 台でした。漁獲尾数の少なかった沖合域(St.3,5)では中・小型魚はみられず大型魚主体でしたが、沿岸域(十勝沖の St.13,15)では大型魚に加えて小型魚が多く漁獲されました。漁獲尾数の一番多かった St.13 では小型魚の割合が高かったため、調査点全体の合計では全漁獲尾数に対して小型魚・ジャミの割合が約 48%を占めていました。特大・大型魚の割合は約 36%であり、昨年(約 43%)よりも低い値でした。

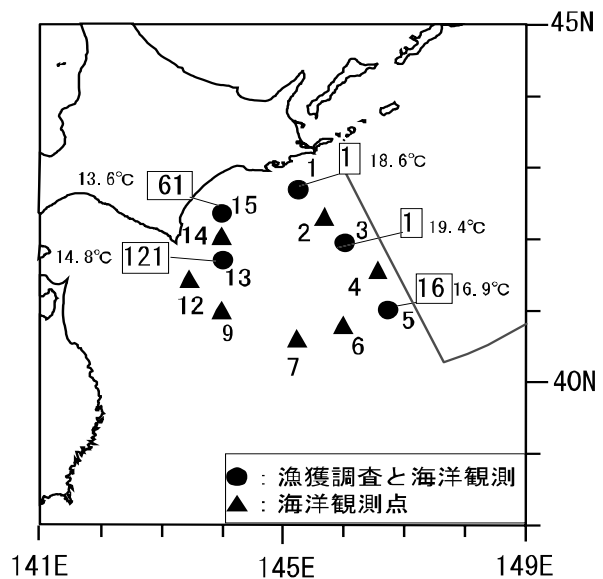


図 1 2008 年サンマ南下期調査の調査点ごとのサンマ漁獲尾数と水温

* 目合 29,37,48mm の漁獲尾数から算出。1 反は 30 間切りで換算。

表1 2008年サンマ南下期調査結果概要

St.	調査日 (揚網日)	網浸漬時間 (時間)	水温(°C)			サンマ漁獲尾数					合計	
			0m	50m	100m	目合22mm	25mm	29mm	37mm	48mm		55mm
1	9月23日	11	18.6	3.2	2.3	-	-	-	1	-	-	1
2	9月23日	-	19.9	3.4	2.1	-	-	-	-	-	-	-
3	9月24日	4	19.4	10.2	8.2	-	-	-	1	-	-	1
4	9月25日	-	18.8	11.4	9.9	-	-	-	-	-	-	-
5	9月25日	11	16.9	4.9	1.9	-	-	1	15	-	-	16
6	9月26日	-	17.5	6.6	3.4	-	-	-	-	-	-	-
7	9月26日	-	16.3	3.9	2.0	-	-	-	-	-	-	-
8	時化のため中止		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	9月27日	-	13.0	11.0	7.0	-	-	-	-	-	-	-
10	時化のため中止		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	時化のため中止		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	9月28日	-	11.8	8.1	2.6	-	-	-	-	-	-	-
13	9月29日	11	14.8	2.2	1.9	21	13	64	19	4	-	121
14	9月30日	-	13.2	3.5	2.0	-	-	-	-	-	-	-
15	10月1日	11	13.6	3.5	2.5	-	3	16	39	3	-	61
合計						21	16	81	75	7	0	200

目合22,25mm各1反(30間切り換算)、29,37,48mm各4反(30間切り換算)、55mm2反(30間切り換算)

表2 サンマ南下期調査における漁獲尾数とCPU Eの経年変化

	2000年	2001年	2002年	2003年*	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
漁獲尾数(尾)	608	8,124	2,168	2,425	168	1,851	9,005	316	200
CPUE(尾/反)	7.2	112.2	40.8	185.3	2.0	21.3	124.2	3.2	2.9
漁獲調査点数	7	6	4	1	7	8	6	7	5

*2003年は荒天、地震等により漁獲調査点は1点のみであった。

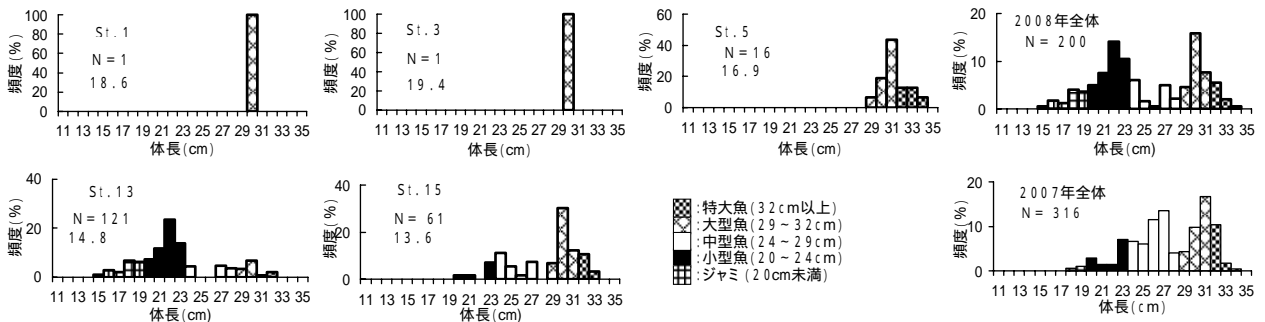


図2 2008年サンマ南下期調査におけるサンマの体長組成 (Nは漁獲尾数、温度は表面水温)

4.まとめ

この時期のサンマは、親潮水の中を北方四島周辺から北海道・本州方面に向けて南下します。今回の漁獲調査点は、例年好漁場が形成される親潮水と北上暖水の潮境付近に配置されており、その表面水温は、沿岸域(特に十勝沖)ではサンマの分布に好適な水温でしたが、沖合域はやや高い水温でした。また、今年は漁期前から資源状態は良いと推定され、当業船の操業でも中小型混じりの大型魚主体で好漁が続いています。今回の調査結果からは、襟裳岬沖で漁獲尾数が多いものの、沖合域では漁獲尾数が少ないことから、今年のサンマの南下は親潮第1分枝に沿って南下しているものが多く、沖合域の親潮第2分枝に沿って南下しているものは少ないと考えられました。

(文責：釧路水産試験場 資源管理部, TEL:0154-23-6222, FAX:0154-23-6225)